

第1分科会【国語】

論理的思考力・判断力・表現力を育成する授業の創造

—教科の枠を超える論理力—

報告者▶ 谷本 寛文（京都光華女子大学准教授／京都大学特任准教授）

報告者▶ 山本 亮至（京都光華中学校/高等学校教諭）

コーディネーター▶ 藤岡 文彦（京都光華中学校/高等学校教頭）

グローバル社会、高度情報化社会において「自ら考え判断し行動することのできる力」がこれまで以上に求められている。本分科会では、論理的な思考力・判断力・表現力の育成に係る課題を明らかにし、実生活に生かすことのできる論理力育成プログラムを提示する。さらに、Society 5.0 時代に求められるクリティカル・シンキングの能力育成に係る具体的な教育方法を教科横断的な視点から提示する。

概 略

大学側として報告者1・谷本氏からは「論理的思考力・判断力・表現力を育成する授業の創造—教科の枠を超える論理力—」というテーマが提示され、必然性と汎用性を実感する学びについてご提案をいただいた。対象とする文章を吟味・評価するためには、どこに何が、どのように書かれているのか正確に読み取る基本的な読解力が必要であるという実感、さらに吟味・評価する過程と結果において「なるほど」という自覚的な学びやものの見方・考え方を磨くことが重要であることをご教示いただいた。また、指導の具体として、吟味・評価する読みの能力を育成するために必要な読みの視点と評価の観点を示していただいた。

高校側として報告者2・山本氏からは、谷本氏からご教示いただいた吟味・評価するために必要となる汎用的な読みの視点と評価の観点をもとにした論理的な「思考力・判断力・表現力」を育成する授業づくりについて実践報告をしていただいた。吟味・評価する読みの実践として、3種類のテキストを用いた授業についての報告があり、それぞれの視点と観点を意識した読みの重要性を伝えていただいた。事前・事後のアンケート調査からも生徒の論理力向上を認めることができるものとなっていた。

全体討論の内容

コーディネーターの藤岡氏の進行により「正確な読解力育成」と「高大連携の意味と価値」という2つのテーマについて、ディスカッションが行われた。まず「正確な読解力育成」に対して、山本氏からは、表現をする場面において、何が問われているのか、問いに付随する条件は何かを明確にし、構造的に表現内容を組み立てることが重要であることを生徒の実態に基づき提起された。

また、谷本氏からは、生徒に対して自らの考えを根拠に基づいた表現を求めることで「正確な読解力」が向上するということと「筆者はなぜ」という疑問を持つことが自らの表現力を高めることにつながるという説明があり、山本氏が実践された生徒自らの問題づくり（Q F T）の価値について評価された。次に「高大連携の意味と価値」について、両氏それぞれの立場から、その重要性が説明された。これらをもとにして、藤岡氏から、高大連携の物理的なつながり、心のつながり、さらには教科の枠を超えたつながりの意味と価値が再認識された。最後に、日本の未来を担う子どもたちの生きて働く国語力の向上・育成に向けて、本分科会に参加された方々とともに、さらなる高大連携の充実・推進に努める旨の確認があり、全体討論が締め括られた。

到達点と今後の課題

論理的な「思考力・判断力・表現力」を育成するために、大学から提案された理論に基づく吟味・評価する読みの実践が、高校現場において効果的であることが明らかとなった。今後は、論理力育成のために、さらに高大連携を密にして、単なる国語の教室という枠組みではなく、キャリア教育の視点も踏まえ、教科横断的な実践へと高め、深めていくことが重要となる。

スライド1



第18回高大連携教育フォーラム
第1分科会【国語】

論理的思考力・判断力・
表現力を育成する授業の創造
—教科の枠を超える論理力—

京都光華女子大学学校教育コース長
京都大学特任准教授
谷 本 寛 文

スライド2

報告内容

1. 現状と課題
2. 育成すべき資質・能力とは
3. 必然性と汎用性を実感する学び
4. 論理的な思考力・判断力・表現力を育成する指導の具体
5. 教科の枠を超える論理力
—説明という学習活動に着目して—

スライド3

1. 現状と課題

PISA (Programme for International Student Assessment) 等、国際的な学習到達度調査の結果から明らかになっている課題

↓

自らの考えを持ち、根拠を基に筋道立てて分かりやすく表現する力

論理的な思考力・判断力・表現力

スライド4

2. 育成すべき資質・能力とは

これまで経験のない問題や予測困難な問題を解決しようとする創造的・建設的なものの見方・考え方

論理的な思考力・判断力・表現力が必要となる

ものごととものごとの関係を常に意識することが重要

スライド5

3. 必然性と汎用性を実感する学び

問1
なぜ知識、情報、経験は必要なのか？

問2
なぜ読解力は必要なのか？

スライド6

3. 必然性と汎用性を実感する学び

- より良い判断をするためには、知識、情報、経験が必要。

例：数学の問題を解く場合、正解を導くだけでなく、実は判断力を磨いている。

スライド7

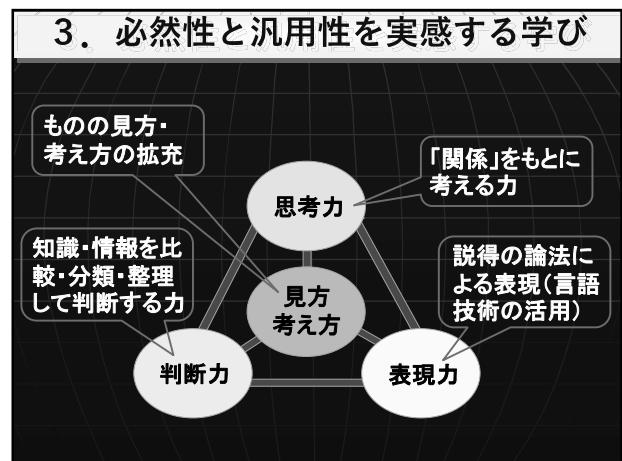
3. 必然性と汎用性を実感する学び

- 実生活で求められる読みの能力は、吟味・評価する読みの能力

↓

吟味・評価するためには、まず何がどこに、どのように書かれているのか、正確に読み取る基本的な読解力が必要。

スライド8



スライド9

3. 必然性と汎用性を実感する学び

「なるほど」という自覚的な学びが重要

ものの見方・考え方を磨くことが重要

スライド10

4. 指導の具体

吟味・評価する読みの能力

- クリティカル・リーディング
- クリティカル・シンキング
- クリエイティブ・シンキング

スライド11

4. 指導の具体

吟味・評価する読みの能力

観点1.
何が分かりやすいのか、その理由は。

観点2.
何が分かりにくいのか、その原因は。
どうすれば分かりやすくなるのか。

スライド12

4. 指導の具体

吟味・評価する読みの能力

視点1: 表現

視点2: 内容・事柄

視点3: 論理展開(組み立て方)

参考: 広島大学名誉教授 森田信義の理論

スライド13

4. 指導の具体

吟味・評価する読みの能力

単に内容の読み取り、理解に留まるのではなく、対象とする文章を分かりやすい、分かりにくい、納得できる、納得できない、という観点で吟味・評価し建設的な案を提示することのできる能力を育成することが極めて重要である。

スライド14

4. 指導の具体

吟味・評価する読みの能力

1. 対象とする文章を読む。
2. 自由な書き込み。
3. 吟味・評価し、自分の考えを根拠を基に表現する。
4. 他者と考えの交流をする。
5. ものの見方・考え方の拡充を図る。

スライド15

5. 教科の枠を超える論理力

「説明する」という学習活動の重視

↓

自らの考えを根拠を基に筋道立てて分かりやすく表現できているか。

↓

評価規準
十分か、不十分か。

スライド1

第18回高大連携教育フォーラム
第1分科会【国語】

授業実践報告

京都光華高等学校 国語科 山本亮至

京都光華中学校／高等学校

スライド2

本資料について

- 論理的な「思考力・判断力・表現力」を育成する授業作り
- アンケート結果
- 授業者としてのまとめ
- 継続的な研究内容

スライド3

論理的な「思考力・判断力・表現力」を育成する授業作り

全4時間+実践後アンケート

時数	学習活動	学習目的
1	実践前アンケートの実施	・読みの意識の実態調査 ・読むことについての課題意識を持たせる
2	吟味・評価する読みの実践1 社説「部活動の地域移行 教員負担の削減だけでは」 京都新聞 2020/09/13 ①個人での自由な書き込み②グループでの意見交換 ③全体交流	・「吟味・評価する読み」の観点と視点の確認 ・観点と視点を意識した読みの実践
3	吟味・評価する読みの実践2 社説「高校生の就職 コロナ禍で支援厚く」 朝日新聞 2020/07/08 ①個人での自由な書き込み②グループでの意見交換 ③全体交流	・「吟味・評価する読み」の観点と視点の確認 ・観点と視点を意識した読みの実践
4	吟味・評価する読みの実践3 社説「生活とAI 特性を理解すれば賢く使える」 読売新聞 2020/09/06 ①個人での自由な書き込み②グループでの意見交換 ③全体交流	・「吟味・評価する読み」の観点と視点の確認 ・観点と視点を意識した読みの実践

スライド4

論理的な「思考力・判断力・表現力」を育成する授業作り

全4時間+実践後アンケート

スライド5

論理的な「思考力・判断力・表現力」を育成する授業作り

吟味・評価する読みの実践1～3

第一回 「評価する読み」の実践
第二回 「評価する読み」の実践

第1回「論理構造・組み立て方」

第2回「表現」

第3回「内容・事柄」

スライド6

論理的な「思考力・判断力・表現力」を育成する授業作り

吟味・評価する読みの実践1～3
①個人での自由な書き込み

- ・「なるほど」と思う筆者の工夫がなにかわかりやすいのか、その理由は。
- ・読者として納得できないところ、なにかわかりにくいのか、その原因は。どうすればわかりやすくなるのか。

論理的な「思考力・判断力・表現力」を
育成する授業作り

吟味・評価する読みの実践1～3

②グループでの意見交換

- ・ 筆者の主張
- ・ わかりやすかった点とその理由
- ・ わかりにくかった点とその原因

論理的な「思考力・判断力・表現力」を
育成する授業作り

吟味・評価する読みの実践1～3

③全体交流

- なにがわかりやすいのか、その理由は。
- なにがわかりにくいのか、その原因は。
どうすればわかりやすくなるのか。

「文章を改善するための建設的な案」
を提示する

[illegible][illegible]

アンケート結果

実践前アンケート

「論理的な文章を読むときは、どのようなことに気をつけているか。」

- ・ 25人のうち15人が接続表現に気をつけている。
- ・ 25人のうち8人が筆者の主張に気をつけている。
- ・ 文章中の事実と意見に着目することができている。
- ・ 回答が単語のみの生徒が見られる。
- ・ 「～こと」を用いた文章で回答できていない生徒が見られる。

[illegible]

スライド 13

アンケート結果

実践後アンケート

「吟味・評価する読みが、なぜ必要だと考えるか。」

- 全ての生徒が「～ため」「～から」を用いた文章で回答している。
- 25人のうち12人が自らが表現する場面を想定した回答をしている。
- 身につけたい能力として「筋道立てて分かりやすく表現する能力」を挙げている。
- 25人のうち3人が大学入試に役立つからと回答している。
- 自らが社会に出た場面を想定している。

スライド 14

アンケート結果

アンケート結果の比較

- 目的意識を持った読みを確立することができた。
- 適切な文末表現を用いることができた。
- 読み手を意識した表現を用いることができた。
- 自らが「評価すること」の観点が「評価されること」に繋がることを認識できた。
- 「筆者の主張」「接続表現」「文章構成」などが文章を読むに当たって必要な視点であることを再確認できた。
- 筆者の論理に対して自らの意見を持つようになった。

スライド 15

授業者としてのまとめ

実践授業 全4時間+実践後アンケートによって

- 的確に筆者の主張・意見を読み取ることができるようになった。
- 接続表現や文末表現を適切に用いるようになった。
- 自身の意見を支える具体例を述べるようになった。
- 文章を推敲する意識が生まれた。
- 口頭での発表においても、聞き手を意識した丁寧な発表を行うようになった。

スライド 16

継続的な研究内容

今後に向けて

「吟味・評価する読み」の観点と視点を意識した読みによって、生徒にどのような変化が現れたのかを数値によって明らかにしていきたい。